

令和3年度 障がい福祉サービス従事者 新人研修

演習3「^{よしかず}令和さんのある1日」

【令和さんの概要】

令和（よしかず）さんは、身体を動かすことが好きな40歳の軽度の知的障害がある優しい男性です。夕方の晩酌（酎ハイ1本）と甘いものと女性と話をすることが大好きです。

35歳の時に糖尿病を発症し、39歳の時に右目の視力が低下してほとんど見えない状態になってしまいました。現在も活動的な生活をしていますが、視力低下と体重増加の為に頻りに転倒するようになり、道路で倒れているところを連絡されることが多くなってきたため、最近では自操式の車いすを利用しています。現在、就労継続支援B型事業所に通い、自分で散歩したり午後3時半頃になるとコンビニへ買い物に行ったりしているのですが、時々帰りの送迎車を待たせてしまい、仲間から叱られることがあります。

事業所から歩いて3分の所にジュースの自販機があり、幹線道路を挟んでコンビニがあるのですが、近くに保育園や学校があるため歩道橋で渡るようになっており、信号と横断歩道は近くにはありません。コンビニへは信号機のある交差点を通過して往復30分かかります。

両親は不慮の事故で3年前に亡くなりましたが、お父さんは某テレビ局の有名アナウンサーで、令和さんは生前のお父さんの放送をとてもし上手にモノマネして周りの人を楽しませたり驚かせたりしています。仕事に対する姿勢も前向きで、コツコツと取り組み、ゆっくりと丁寧に優しく説明すると理解して自主的に仕事をすることが出来ます。

※ 令和さんが通う就労継続支援B型事業所での出来事を5つのシーンで紹介します。

【シーン1】「糖質制限」

支援員Aと看護師Bが令和さんの身体を心配して…

【シーン2】「外出制限」

コンビニに行きたい令和さんが支援員Cと所長Dに相談するが…

【シーン3】「伝わったか？」

支援員Cから作業の指示を受ける令和さん。ところが…

【シーン4】「ストレングスの発見」

相談支援専門員Fからモニタリングを受ける令和さん。聞き取りで意外なことが…

【シーン5】「社会資源」

行きつけのコンビニの店長Gが令和さんを心配して事業所へやってくるが…